

現在、新型コロナウイルスによる肺炎患者が中国を中心に広がりを見せています。せきやくしゃみなどの飛沫を通じて感染する可能性が高く、予防にはマスク着用と手洗いが重要です。いつ新しい感染症が流行するのかわからないため、国内外で流行している感染症に対して常に警戒しなければなりません。

知りたい! 治療の最前線

海外での感染症対策

一口メモ

海外の感染症情報をまとめた厚生労働省のサイト (<https://www.forth.go.jp/index.html>) や、国内のトラベルクリニックをまとめた日本渡航医学学会のサイト (<http://jstah.umin.jp/O2travelclinics/>) が渡航前の情報収集で参考になる。

渡航前にワクチン



上野 亨敏
富山大附属病院
総合感染症センター・
感染症科診療助手

海外に渡航する日本人や日本に来る外国人の数は年々増えています。インターネットを通じて情報が得やすくなったことや、格安航空券の普及などにより、海外旅行へ気軽に行けるようになりました。特に今年は東京五輪・パリオリンピックも控えているため、訪日客のさらなる増加が予想されます。海外との距離が近くなっていますが、同時に新たな海外から帰国後、熱や下痢

複数回接種も必要

型コロナウイルス肺炎のように、海外から感染症が持ち込まれる可能性が十分にあり注意が必要で

異なる潜伏期 海外から持ち込まれる感染



トラベルクリニックでのワクチン接種の様子—富山大附属病院

症を「輸入感染症」と呼びます。蚊によって媒介されるマラリアやデング熱が有名で、渡航する地域によって流行している感染症が異なります。例えば、アフリカではマラリアの割合が多く、東南アジアではデング熱が多いと言われます。また、感染してから発症するまでの潜伏期はそれぞれ違います。海外から帰国後、熱や下痢

表 海外での感染症対策

防蚊対策

- DEETやイリカジンなどの忌避剤を塗る
- 日焼け止めと併用する際は日焼け止めを先に塗る
- 蚊取り線香や蚊取り器の使用
- 窓を開け放しにしない
- 蚊帳を使う

経口感染の対策

- 食前など手洗いをこまめにする
- サラダを含め火の通っていないものを食べない
- 飲用水はボトル入りのものを使う
- 氷の入った飲み物をおかない
- 露店や屋台など不衛生な店では食べ物を購入しない

その他

- 飛沫を防ぐためにはマスクを着用する
- かまれる可能性があるため動物には近づかない
- はたして砂浜や砂漠を歩かない

ついでです。
トラベルクリニック
輸入感染症においても、予防に勝る治療はありません。しかし、日本へ旅行者が渡航前に医療機関などに健康相談する機会は、諸国と比べて少ないとされています。富山大附属病院など日本渡航医学会から「トラベルクリニック」の認定を受けた医療機関の輸入感染症の予防や海外渡航における健康問題について、渡航前に医学的なアドバイスを発行しています。具体的には感染予防のためのワクチン接種やマラリア予防内服、現地での生活上の注意点などの情報を提供しています。渡航までの期間や渡航先の状況で接種するワクチンが異なります。当院では狂犬病やA型肝炎などの国内承認されたワクチンを接種しています。複数回接種するため、少なくとも1〜2カ月ほど余裕をもち、次回接種は4月に掲載します。

当院の総合感染症センターでは、輸入感染症を含めた感染症診療に当たっています。輸入感染症には特殊な治療薬が必要な場合もありますが、北陸で唯一の熱帯病治療薬研究班薬剤使用機関に登録されており、診療体制を整えています。輸入感染症に関わらず、敗血症性ショックなどの重症感染症やHIV感染症の診療もしています。

近年、世界中で抗菌薬が効かない薬剤耐性を持つ細菌が増えています。対策が取られなければ2050年には1千万人が薬剤耐性菌により命を落とし、がんによる死亡者数を上回る」と試算されています。

感染症治療全般により良い治療が求められる時代となっています。これからは地域の医療機関と連携し、輸入感染症や耐性菌の脅威から地域を守るよう診療に取り組んでいます。